

<シリーズ 音声訳上の処理 第5回>

聴覚で理解できる録音図書を作っていますか？

久保 洋子

今回は、聴覚でする読書と視覚でする読書の違いについて考えてみたいと思います。もともと視覚にうったえる情報を、聴覚で正しく理解できるように読むにはそれなりの配慮が必要です。

前回(No.128)、川上正信さんは「いくら正確さを追及し、下調べをして正しい読みがわかって、また、頭で目指す読みが理解できていても、それを、読者に聞きやすく、墨字で理解できる録音図書に仕上げることは別である。」と書いておられます。その通りだと思います。

墨字の本を、聴覚で快適に続けるようにするのが私たちの仕事です。文意を正しく捕らえ、それを正しく伝える音声訳技術が必要なことはいうまでもありません。その上に必要な漢字の補足をしたり、図表の説明をしたり、そうした処理をして、墨字の本を読むのと同じように読める録音図書を作らなければなりません。

晴眼者が本を読むとき、解りにくいところがあれば同じところを読み返したり、辞書を引いたりして、あらためて先を読むことは簡単にできますし、誰でもしていることです。これに対して録音図書では、同じところを読み返すのもそれほど簡単ではありません。本の内容が難しくても何回も読み返すのは仕方のないことですが、録音図書の配慮が足りなくてこの困難な作業をしなければならないのでは快適な読書とは言えません。また、録音図書では何か疑問を持ってそれに捕らわれていると、音はどんどん先へ進んでしまいます。そこでまたもどして聞き直すことになります。これも快適

な読書とはいえません。

このことを考えると、録音図書製作に当たっては、初めから順に聴いていけば理解できるような配慮が必要です。墨字の原本を尊重しながら、漢字の補足はどこに、どのように入れるのか、図や表の説明はどこに入れるのか、写真はどうするのか、あくまでも利用者の立場で考えなければなりません。

また川上さんの文章ですが、「聴覚での確認作業が皆無であることについて」という件がありました。録音図書製作の現場では、読み手はもちろん、校正者も編集者も、原本を見ながら作業をします。活字の校正では、たとえ意味がわからなくても原稿と同じ文字であればいいのですが、録音図書の校正では、正しく読んでいるかということのほかに、聴覚で原本通りに理解できるかのチェックが必要です。現状ではこのチェックが十分に行われているとは思えません。このチェックが出来るようになるには、川上さんがおっしゃる通り、音声訳者自身も校正者も聴覚での読書を経験することが必要だと痛感します。私たち音声訳者は録音図書を聴いて解りにくいところがあっても、原本を見て納得してしまうことがあります。これでは本当に利用者の立場とは言えません。こう考えてみると、晴眼者が真に聴覚の読書を経験するのはやさしいことではありません。でもそれができないといい音声訳者にはなれないと思うのです。

今自分が読んでいるもの、校正しているものが、聴覚で快適に読めるものになっているのか、一人ひとりが考えてみなければなりません。そして、どうしたらいい録音図書が作れるのか、どんな勉強法があるのか、利用者の力もお借りして皆で考えていきたいと思います。

読み方についての

Q&A

Q 対談の読み方で、語尾に「？」や「！」などの記号が付いた文章はどう読むべきでしょう。「！」や「？」も読んだ方がいいという意見もあるのですが。

A 対談はもともと対話を文章化しているものです。文章としては会話が中心になりますので、その会話のニュアンスを伝える為に、「？」や「！」を使っているわけです。会話の中では、「ぎもんふ」とか「かんだんふ」と言葉はもともとでてきませんので、音声訳者がこの記号を読んだのでは違和感を与えてしまいます。やたら記号だけが耳について本来の会話の内容が損なわれることもあります。

記号を読むケースとしては、「項目」などで、肯定文の語尾に「？」が付けられているような時には「ぎもんふ」と読む場合がありますが、普通、対談ではイントネーションなどで表現すべきでしょう。対談の流れで内容は十分つかめると思います。

また、対談者の名前を読むときは、「声を落として」読むようにしましょう。会話の調子で高く出ると混乱してしまいますので注意しましょう。

デイジー編集についての Q&A

Q デイジーの編集でフレーズが1500を超える場合、セクションを分けて、レベルを一つ下げて編集していますが、それでいいのでしょうか。

A 現在のシグツナではフレーズが1500以上になると編集できないので、セクションを分けて編集しています。特に、小説などで、目次の無いような本ではこうしたことがおこります。実際に編集する時はレベルを下げて編集した方がよいでしょう。

現在、リハ協から配布されているソフト（マイスタジオPC）では、この問題が解決していますので問題はありません。盲人情報文化センターでは、今後、このソフトで編集していく予定です。シグツナで編集したもので、この新しいソフトで再編集が可能ですので、今後は「編集上の都合で一部レベル2があります・・・」といったコメントはなくなります。

尚、本によっては目次が無くても、本文が項目で分けてあるような場合、セクション分けして編集することもあります。あくまでも本によって対応を考えていくようにしましょう。

※ デイジー図書凡例についていろいろあり、混乱もみられます。今回は、デイジー図書凡例について、大林さんにまとめていただきました。大林さんには現在、デイジー図書およびカセットマスターの最終チェックをお願いしています。

デイジー図書凡例について

大林 緑

- 1) デイジー図書凡例は、CD図書を聞く方へその本の構成を伝える役目をしていきます。本文に入る前に知っておいて欲しい事を凡例とします。
- 2) デイジー図書凡例は目次の前に入れます。したがって目次にあるタイトル名を挙げて階層の説明をする、などは分かりにくい凡例です。
- 3) デイジー編集上の「セクション」「1500フレーズ」などはCD図書を聞く方には分かりにくい言葉です。凡例に使うことは適切ではありません。
- 4) 凡例は、簡潔で、聞いて分かりやすいことが大切です。なるべく1センテンスを短くし、長い文の時はそのあとに続けます。
- 5) 録音図書凡例で入っていたものもデイジー図書凡例として入れます。入れる順序は、原則として「階層の凡例」よりあとです。
(録音図書凡例はデイジー編集の際、消去する前に必ず確認して下さい。目次の前に聞いて分かる凡例かどうかにも注意して下さい。)

以下に

「デイジー図書凡例」の例をあげます。

本により様々なケースがあります。参考にしてその都度ご検討下さい。

1、階層

- ★「この図書の階層はレベル1です。」
- ★「この図書の階層はレベル1とレベル2です。」
- ★「この図書の階層はレベル3まであります。」など。

(目次にない小項目をレベル2やレベル3にした時など)

- ★「この図書の階層は、目次にある項目をレベル1 (レベル1とレベル2)、

目次にない小項目をレベル2（レベル3）で編集しています。」

（目次がない本）

★「この図書には目次がありません。」

（目次がない本で本文中の項目をレベル2にした時など。この場合のレベル1のセクションは、～・目次・本文はじめのタイトル名・終わりの枠、となります。）

★「この図書には目次がありません。階層は、本文中につけられた項目をレベル2で編集しています。」

★「この図書には目次がありません。本文中には項目として1から20まで番号がつけられています。階層は、番号ごとにレベル2で編集しています。」

（目次の階層が多い場合。専門書は別として、一般書で目次にあるからとデイジーの階層を深くすることが必ずしも良いとはいえません。本の内容によってその項目の単独検索が容易であるほうがいい場合は別として、場合によってはレベルのかわりにグループチェックを使って編集します。）

（目次が4階層ある場合で、最小項目にグループチェックをした場合）

★「この図書の階層はレベル3まであります。それ以下の、目次の最小項目にはグループチェックをしています。」

★「この図書は目次の階層は4階層までありますが、デイジーの階層はレベル3までです。最小項目にはグループチェックをしています。」

2、図・表・写真・注 など

★「本文中の図や写真のはじめとおわりにグループチェックをしています。」

（図や写真のページが、原本とデイジー図書とが違って気になる時）

★「図や写真に添えられたページは原本のページです。

デイジー図書のページとは必ずしも一致しません。」

3、索引

（いろいろなケースがあるので各索引に合わせて工夫して下さい。）

★「索引も読んでいます。」

(索引のはじめに各单位ごとにグループチェックをしていることを知らせます。)

★「索引はあ行、か行単位で、グループチェックをしています。」

以上

初心者を対象にした

「2003年度、音訳基礎講習会」のご案内

2003年、初心者を対象にした盲人情報文化センターの「音訳基礎講座」を下記の内容で実施します。

この講習会はあくまでも、初心者を対象にした講習会で、定員は15名です。今年、秋に予定しています「録音図書製作講習会」は、別に選考試験をおこないます。

今回の講師はプロのフリーアナウンサーで活躍の北川富美代さんに発声・発音を担当していただきます。

講習希望者は電話でお申し込みください。

音訳基礎講座の実施要項

- 時 期： 2003年5月21日(水)
～10月17日(水) 全11回
- 時 間： 1時半～3時半
- 講 師： 北川 富美代氏
- 定 員： 15名程度
- 締切日： 2003年4月30日(水)
- 試験日： 2003年5月7日 1時半～3時
- 内 容： 読み、漢字、面接等
- 講習内容： 発声・発音の基礎を学ぶ

2003年度

「音訳フォローアップ講座」(全10回)のご案内

橋本勝利先生による「音訳基礎講座(ブラッシュアップ)」は今年度、盲人情報文化センターの「音訳基礎講習会」と混乱しますので名称を「音訳フォローアップ講座」に名称を変え、これまでどおり第4水曜と第4金曜に実施します。

定員は2コースそれぞれ15名です。この講習会は先着順で受け入れま
す。定員をオーバーするようであれば、回数を増やすことも検討します。
お早めにお申し込みください。

実施時期：2003年6月～2004年3月

毎月第4水、第4金の午後1時～4時

費用 7000円(10回分一括)

申し込み締め切り 6月10日(火)

講師 橋本 勝利 氏

デイジー編集者募集します

盲人情報文化センターではデイジー編集者を募集します。定員は若干名。講習はマンツーマンで行います。講習終了後は盲人情報文化センターでデイジー図書^の作成が可能な方です。パソコンをお持ちの方は歓迎します。

希望者は録音製作係までお申し込みください。

申し込み方法： 電話または来館

講習期間： 週1回程度 半日～一日(本人の状況により)

定員： 若干名

内容： 盲人情報文化センターで製作した録音図書のデイジー編集

利用者から製作依頼を受けている原本

『人間の永遠の探求 パラハッサ・ユガツダ講話集』パラハッサ・ユガツダ著〈綴〉

『新・良妻賢母のすすめ』ヘレン・アンデリン著 岡喜代子訳〈人生訓〉

『教会と現代社会 神学』

『マンション管理士管理業務主任者』マンション管理法令研究会著〈商業経営〉

※この本は共同製作可能の本です。グループでの製作を募集します。

『できる入門ワード』〈ワープロ〉

『電池がきるまで』〈障害児教育〉

『イチローのメンタル』豊田 一成著 〈スポーツ〉

『福祉住環境コーディネーター3級過去問題集』渡辺光子著〈〉

→引き受けていただいたグループ

『あたらしい数学 I』杉山 吉茂 著〈中学〉 ICCB

『あたらしい数学 II』杉山 吉茂 著〈中学〉 //

『笹百合』森山 陽子著〈雑著〉 //

『大悟の法 常に仏陀と共に歩め』大川隆法〈宗教〉 //

『ろくおん通信』の更新のお願い

『ろくおん通信』の更新月となりました。グループには「お知らせ」を同封しておりますのでよろしくお願い致します。

今回から、郵送費を一律、年間、1000円（部数に関係なく）とし、『ろくおん通信』の印刷代として、1部年間100円とさせて頂きました。

1部の場合は、年間1100円、後は申し込み部数に従って100円ずつ増えていきます。5部の場合は、年間1500円、10部の場合は年間2000円になります。

郵便で申し込まれる方は、出来るだけ郵便小為替でお願いいたします。